

長期地球温暖化対策プラットフォーム海外展開戦略タスクフォース第5回会合
(意見要約)

日時：平成29年2月27日（月）15：30～17：30

場所：経済産業省 第1特別会議室

議事次第

1. 議事

- (1) SDGsに関する取組について
- (2) 世銀グループの気候変動問題に対する取組について
- (3) 途上国における温室効果ガス排出削減支援について
- (4) 国際貢献に向けて・「中間整理」に対するエビデンス・情報募集

結果の紹介

2. その他

(配布資料)

資料1 参加メンバー名簿

資料2 蟹江委員 御提出資料

資料3 国際協力機構 久保倉様 御提出資料

資料4 世界銀行 松木様 御提出資料

資料5 みずほ情報総研 提出資料

資料6 みずほ情報総研 提出資料

資料7 国際協力機構 佐藤様 御提出資料

資料8 事務局資料

資料9 事務局資料

資料10-1 温暖化適応ビジネスの展望

資料10-2 温暖化適応ビジネスの展望（資料編）

資料10-3 温暖化適応ビジネスの展望（概要版）

【国際貢献の「見える化」活用】

1. SDGsは資金量等ではなく、具体的な目標を決めて、それをいかに達成していくという非常に結果オリエンテッドなアプローチを取っているようで、大変興味深い。それを鑑み、日本の貢献を対外的にアピールする際に、「優れた低炭素技術と資金を結びつける」という表現があるが、「結果オリエンテッドな貢献を目指す」という言い方があっても良い。
2. 貢献の「見える化」について、IoTなど技術面でこれを可能にする状況が、少しずつ社会の中に実装されてきている。IoTやそれと関連する技術分野で起きていることと、それによって効果の定量化がどれほど実行しやすくなっているのかを、これから起こるであろう大きな技術変化も視野に入れながら、整理してみてもどうか。

【技術普及】

3. インドでは今後も大幅な粗鋼生産量増大が予定されている。省エネの投資回収年数は生産拡大のための投資よりも長く、インセンティブが必要。「省エネ投資をやったら美味しい」と思わせるプロジェクト・ファイナンス・スキームを **JICA**、**JBIC**、**NEDO** だけでなく、場合によっては、アジア開発銀行、**GCF**、**GEF**、世界銀行などの資金を組み合わせ、オール・ジャパンでインド鉄鋼省に紹介することや、その利用を個々の企業にアドバイスできる人材が必要なのではないか。
4. 「貢献実績の認証のあり方を検討」ということだが、そこに資金をどうやって出していくかということも、検討して欲しい。例えば廃棄物処理設備は「地方自治体」管轄であり、プロジェクト主体やリスクのとり方は、**JBIC** や **NEXI** でもまだ難しい。プロジェクト主体と、リスクのとり方について、仕組みを作ることが実行につながるのではないか。
5. 排出削減プロジェクトの資金やニーズの掘り起こしにおいて、既にメニューは多数あるので、国内外の民間・公的機関が既に実施していることをリストアップと共に見える化し、うまく組み合わせることで、案外できることは多いのではないか。
6. 世界銀行や **JICA** は、ある程度、途上国側の達成度を踏まえて資金提供するというのは大変参考になった。**NEDO** 事業でも相手方の達成度に応じて資金や技術プログラムを提供するようなことを考えたい。
7. さらに追加的な投資を行えば、もう 1 段階、2 段階、大きな削減効果を生むことが見込まれるのに、企業の自主ファイナンスだけでは手が届かないような技術に対して、資金提供することで、より大きな成長と **CO2** 削減を達成するプログラムを考えられないか。

【途上国の投資環境整備】

8. 資金提供による低炭素型あるいは **SDGs** 型への相手国の（内政干渉ではない形の）政策トランスフォーメーションが、どのようにして達成できるのかということが一番重要と感じている。**JICA** が長年支援している政策トランスフォーメーション（プログラム円借款等）が、日本の技術展開とどういう形で結果が出るのか、もっと分析する必要があるのではないか。

-以上